



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『北大宗教学年報』刊行にあたって
Author(s)	宮嶋, 俊一
Citation	北大宗教学年報, 1, i-i
Issue Date	2018-08-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/71505
Type	editorial
File Information	1_1_kankou.pdf



『北大宗教学年報』刊行にあたって

この度、オンラインジャーナル『北大宗教学年報』を刊行することとなった。刊行に際しては多くの方々のご尽力を賜った。ここに感謝の意を表したい。本当にありがとうございました。

編集作業に携わった者のひとりとして、刊行の背景等、簡単に説明をしておくこととする。これまで、北大宗教学インド哲学講座で宗教学を学ぶ者たちを中心に研究会が開催されてきた（北大宗教学研究会）。参加者は、教員、院生、OB.OG.、その他関係者で、年に数回、研究発表を行ってきた。発表した内容が活字化されることもあったが、とりわけ院生の発表の多くはその場限りのものとなってしまう。そこで、院生・ポスドクら、若手に研究発表に基づいた文章執筆の機会を与えることを最大の目的として、オンラインジャーナルを刊行することとした。その目的を鑑み、論文だけでなく、研究ノート、報告、発表要旨など、多様な発表形態を設けている。北大宗教学研究会での発表を元にして、どんな長さであれ、文章にまとめることができる場になればよいと考えている。また、院生・ポスドクだけでなく、研究会の発表者で執筆を希望する者には幅広くその機会を与えられるような場となることを目指していきたい。

なお、北大宗教学研究会は宗教学インド哲学講座（主に宗教学）が主催する学内研究会であり、その研究成果を HUSCUP で学内誌として登録する、という一連の流れの中に本誌は位置づけられており、それゆえタイトルを『北大宗教学年報』としたが、将来的にどうすべきか議論の余地があるだろう。また、今回は、執筆者の中で早々に原稿を提出した者が中心となって作業に当たった。その体制についてもあらためて検討する必要があるだろう。

さまざまな課題を抱えてはいるが、道内で初めて「宗教学」をタイトルに冠するジャーナルが刊行されることをまずは喜びたい。そして、本誌刊行を足がかりとして、道内における宗教研究が活性化していくことを切に望む次第である。

編集者代表

宮嶋俊一